

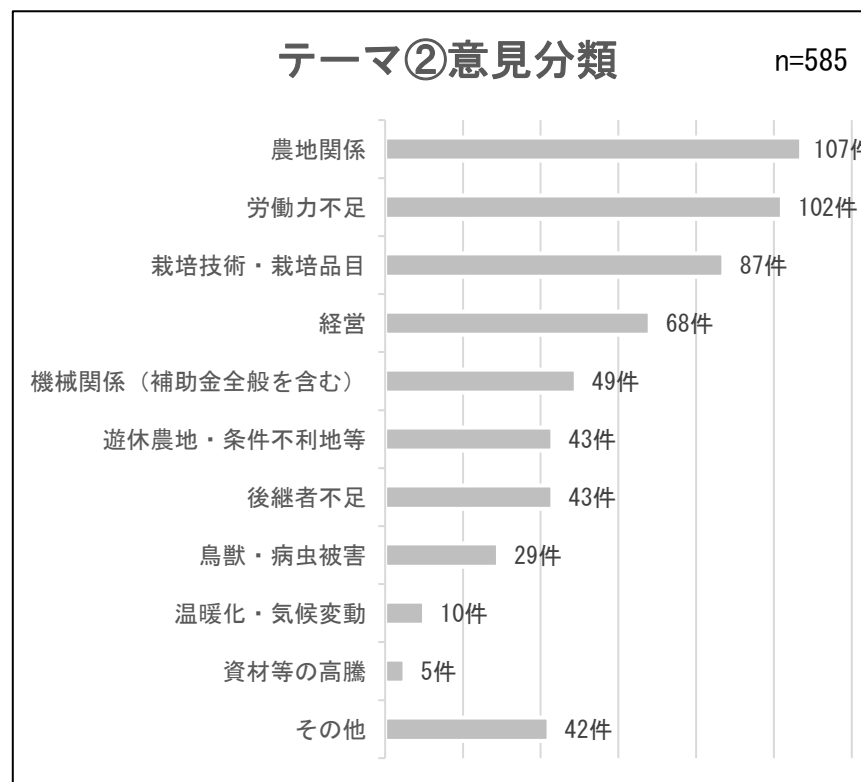
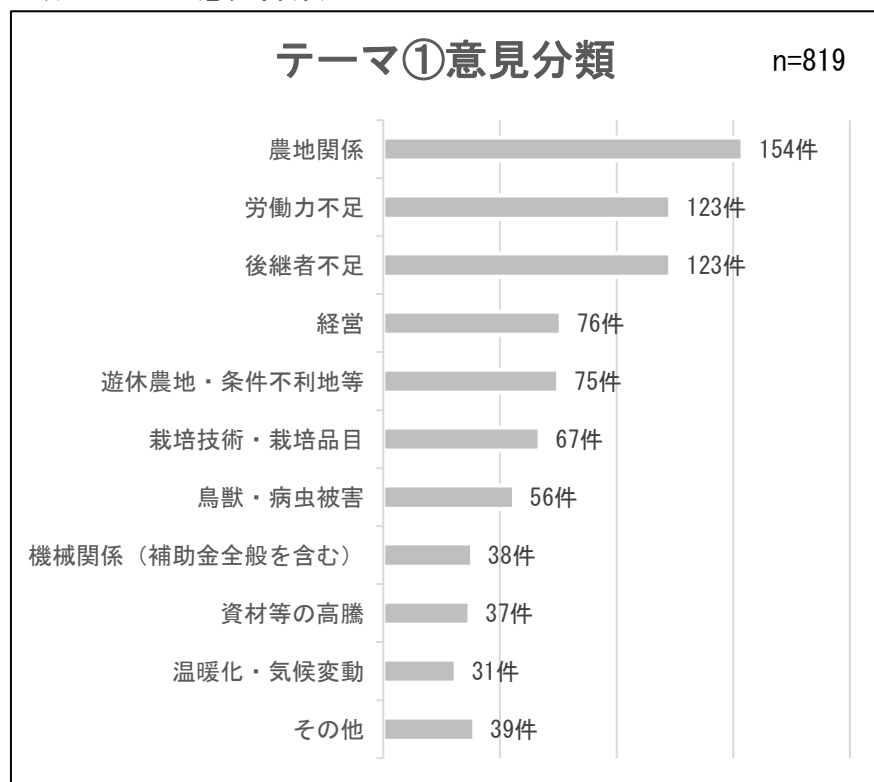
令和5年度地域農業の将来について考える集落座談会における ワークショップの実施結果について

令和6年度に地域農業の将来方針（人・農地プラン）に代わり地域計画を新たに策定することを機に、農業者の皆さん自身が営農している地域の現状や課題を改めて確認していただき、その解決策を模索して地域農業をより良いものとするための足掛かりとするために、下記の2つのテーマについてグループで意見を出し合い、最も重要だと考える意見を発表するワークショップを実施しました。

なお、このワークショップで出た意見は地域計画策定の基礎資料にすることとしています。

- ・テーマ①「地域農業の現状と今後の課題について」
- ・テーマ②「地域における農業の将来のあり方について」（テーマ①で出た意見の対応策）

●各テーマの意見分類



●各グループの発表内容

No.	地区名	課題等	対応策
1	清水	クマなどの鳥獣被害への対応を検討する必要がある。	ハンターの育成を進める。（研修の機会を増やす。若い人にハンターについて知ってもらう。）
2	清水	農作業の人手が不足している。	水稲については集落営農組織に農地を集める。 りんごについては収穫期の人手不足が解消できれば規模拡大できる。
3	清水	賃金が良くないと人材が定着しない。	法人では、年収 400 万円を支払えば若い人材が定着するが、労働生産性を上げる必要がある。そのためにスマート農業などによる農作業の効率化、高密植栽培を行う。 また、新規就農者が農地を見つけるまで法人で経営スキルや技術を身に付けてもらうことによりスムーズに営農を開始できるようにする。
4	清水	労働力不足（薬剤散布、せん定）で苦勞している。 年間を通して働ける環境が少ない。	請負散布、請負せん定を促進する。 現状では女性が農閑期に行う仕事が少ないため、その期間の仕事を確保する。
5	清水	作業員の高齢化により通年雇用できなくなり、結果として作業員が不足する。	農業経験者を派遣できる仕組みを作る。
6	清水	条件の悪い農地が耕作放棄地になりつつある。 作業員が不足している。（りんごの販売は好調だが、時給単価を上げて募集するのは難しい。）	りんご栽培に向いていない農地は、手間のかからない別の品目を検討する。 条件の良い農地を集約してそこに作業員を集中させて利益を上げる。休日を作るなどして雇用条件を良くする。
7	新和	高齢化に伴い、労働力や後継者が不足している。	農業を魅力あるものにして新規就農者が就農しやすい取組を行う必要がある。

No.	地区名	課題等	対応策
8	新和	人材が不足している。	行政に他業種の法人と農家の架け橋になってもらいたい。 シルバー人材センターに依頼する。
9	新和	温暖化への対策を検討する必要がある。	加工品により利益を得る方法を考えていかなければいけない。
10	新和	若い人材の確保が必要である。	新規雇用者への補助金を導入する。(3か年位)
11	新和	若い人の田んぼを耕作する意欲が低い。稲作に魅力を感じていない人が多い。	自分で耕作できる農地以外は集落営農組織や大規模農業者に任せる。
12	相馬	人手が不足しているが時期によってムラがある。 収入が安定しない。	新たにりんご、米以外の品目を作りJAに売ることにより、年間を通して作業や収入が安定し、通年で人を雇用できるようにする。
13	相馬	人材が不足している。	雇用にあたって、自由時間出勤や午前のみ、午後のみといった短時間勤務を推進する。 小学校～高校で農作業に携わる授業を行い、農業に対する関心を持ってもらう。
14	相馬	鳥、サル、クマなどによる被害について不安がある。	クマ対策としてオオカミロボットを設置する。 電気柵を購入しやすくしてもらいたい。
15	相馬	園主、働き手ともに高齢化が進行しており、インターネットに疎い人が多いため募集をかけられない、募集を見られない。 鳥獣被害が多い。	インターネット以外の募集方法を検討する。 ハンターの育成が必要である。
16	相馬	人材が不足している。	農福連携や外国人の人材を活用する。
17	石川	鳥害の被害がひどい。	市独自の条例を定めて駆除に努める。

No.	地区名	課題等	対応策
18	石川	傾斜地の放任園の草木が道路まで伸びている。	耕作困難な園地を非農地化して平場に移動する。 中山間地を区画整理し山林化する。 農地を整備した上で農業者に渡す。 現在の景観を守るための取組を行う。
19	石川	農閑期にお願いできる作業がないため、個人経営では 通年雇用が難しい。 人材が不足している。	りんごの選果場で作業してもらうなど、農閑期の作業 が必要である。 雇用時に農家の仕事の良さが伝われば人材の確保につ ながる。 外国人用の宿舎を作るための補助があれば良い。
20	石川	農業機械や農業資材などの初期投資額が高く参入しづ らい。	農業機械が安く手に入ったり、補助を簡単に受けられ たりするようになれば若い農業者が増える。
21	石川	後継者不足、耕作放棄地、農業機械や資材の高騰が課 題である。	農業所得が向上すれば諸問題は解決できる。
22	石川	農業に関する様々な情報を交換できる場が必要ではな いか。	農業以外の異業種を含めて気軽に集まって話し合いを 行うための環境があれば良い。
23	千年	人手不足や高温化でりんごが作りにくくなっている。	ももやシャインマスカットなどりんごに代わる新たな 品目の栽培を検討する。
24	千年	農地の相続登記をしていない人が多く、交換や売買が 難しい。	登記の手続きの簡略化や、相続登記なしでもその農地 について補助金の対象にできるようにする。
25	千年	資材費や人件費、農業機械などのコストがかかる。	資材の共同購入や人材の貸し出しなどを行う。 複合経営によりリスク分散をする。

No.	地区名	課題等	対応策
26	千年	現状では70歳以上の農業者の割合が多く、今後、若手の人口が減っていく。	疎植栽培に取り組み高品質化を図る。 修学旅行生の誘致を行って農業を体験してもらうことにより、移住を検討してもらう。 法人経営を進めて収益性の高い農業を目指す。
27	千年	急傾斜地が多い。 鳥獣被害が深刻である。 高齢化により粗放園や放任園が増えている。	農作業安全の観点からも条件の悪い園地は廃園する。 農業者でお金を出し合っってハンターに報酬を支払う。 人のつながりを大事にすることが粗放園や放任園の減少につながると思う。
28	東目屋	人手が不足しており、継続的に作業人員を供給できる仕組みが必要である。	農福連携を活用して人材を確保する。
29	東目屋	将来的に人材が不足する。	身の丈に合った面積で営農する。 シルバー人材センター等を活用して人材を確保する。
30	東目屋	急傾斜地が多く遊休農地が増えている。 農地の空きがあっても利用者がいない。	急傾斜地から条件の良い農地に移動し、疎植栽培を行い作業の効率化高品質化を目指す。 そのために農地を借りやすい制度や情報を教えてほしい。
31	東目屋	市内から離れており新規参入しづらい。	県外からの移住者に対して農業を勧めてほしい。空き家対策にもつながると思う。 生活保護者に作業をお願いできないか。
32	裾野	耕作放棄地が増えている。未相続農地であることにより、樹体の伐採や売買が困難になっている。	耕作放棄地に対しては、樹体の伐採を仕事としてできるくらいの補助金を出してほしい。未相続農地については法整備により厳格化してほしい。
33	裾野	物価高に伴う経費増が課題となっている。	免税軽油だけではなく、免税ガソリンをしてほしい。 農業に対する助成があれば良いと思う。

No.	地区名	課題等	対応策
34	裾野	高齢化に伴い、労働力や後継者が不足している。	ゆとりある経営を行い、販売面の拡充、黄色系などの省力品種の導入を行う。
35	裾野	労働力が不足している。 物価高で農業機械が高い。	所得を上げる対策をする。 補助金に対する条件を緩和してほしい。
36	裾野	農繁期と農閑期の必要人員の格差がある。	農協等の組織がまとめた人員を用意して必要に応じて分配する。 他品目や他産業との横のつながりによる連携を図り労働力の仲介を行う。
37	岩木	資材や農業機械が高い。	地域の連携による農業機械等の共同購入をする。
38	岩木	高齢化に伴い人材が不足している。	規模縮小や栽培の簡易化を図る。
39	岩木	高齢化に伴い後継者や男性の作業員が不足している。	雇用を確保するために法人化を図る。 「デイワーク」のアプリや外国人を活用する。
40	岩木	繁忙期にアルバイトが集まりづらくなっている。 使われていない農業機械やビニールハウスがあればほしい。	市職員のアルバイトをりんごだけではなく水稲や野菜にも拡大する。 市で情報収集して公開してほしい。
41	岩木	農地取得の手続きについて、既に所有者がなくなっていることにより放任園の拡大につながっている。	農地取得の手続きを簡素化する。 農地活用の条件を緩和し、キャンプ場経営やグリーンツーリズムの取組などを行い、農業以外の収入源とする。
42	岩木	農地の条件が悪いと後継者が見つからない。	人材バンクを充実させる。 園地継承円滑化システムについて、受け手にもメリットがあれば良い。

No.	地区名	課題等	対応策
43	岩木	高齢化に伴う労力不足が課題となっている。	中高生や食に関係する業種など興味を持ってもらえそうなところにインターンなどを行ってもらう。 園主がバイトアプリを使えるように支援してほしい。
44	岩木	クマの被害や腐らん病の被害が発生している。	放任園について、市が無料で伐採等の処理を実施する。実際はりんご協会の各支会やJA 農業者と協力して行っていくことになると思うが。
45	岩木	魅力ある農業を続けていくためには人材育成が必要となる。	人口を増加させる対策が必要となる。
46	旧市・和徳・豊田・堀越	道路やU字溝、区画の整備が必要である。 高齢化により後継者が不足している。	基盤整備を進めることによりスマート農業を実施する。 集落営農組織に農地を集積する。
47	旧市・和徳・豊田・堀越	遊休農地に対する対策が必要である。	国の補助事業を活用して遊休農地を減らす。 農地を整備した上で新規就農者に渡す。
48	旧市・和徳・豊田・堀越	人材、後継者が不足している。 人件費が高く、人を雇っても利益につながらない。	農道整備や大区画化などの基盤整備により、担い手に集積する。 価格の設定について生産者主導で決められれば良い。
49	旧市・和徳・豊田・堀越	高齢化に伴い人手や後継者が不足している。	人口が減少する中、農地面積を維持するのは難しいため、面積当たりの収量を向上させる。 次世代が引き継いで営農しやすいように環境整備を行う。
50	旧市・和徳・豊田・堀越	農地や水路の管理が出来ておらず、条件の悪いところが不耕作地となっている。	水路を整備・管理するための補助金があれば良い。
51	藤代・船沢・高杉	後継者がおらず、農地が荒廃している。	農地取得に関する規制を緩和して農地を集積する。 法改正等により地方公共団体が強制力をもって集約化を図る必要があるのではないか。

No.	地区名	課題等	対応策
52	藤代・船沢・高杉	人手が不足している。	AI やロボットを活用する必要があるが、高価なため補助金を出してほしい。
53	藤代・船沢・高杉	規模拡大をする過程で、農業機械の能力が面積に適さなくなっている。	農業機械のレンタル化を行う。 個人向けの補助金を増やしてほしい。
54	藤代・船沢・高杉	周囲の農業者が減少しており、横のつながりによる情報交換が減っている。	農業者だけではなく、市全体の人口を増やす必要がある。
55	藤代・船沢・高杉	後継者がいない農地が放任園化しており病虫害が飛散している。	法改正により放任園について罰金刑とする。
56	藤代・船沢・高杉	労働力が不足している。	魅力ある雇用形態や条件を設定する。 市内にかかわらず県外も含めて広く求人を行う。 被雇用者の技術習得を支援する。
57	藤代・船沢・高杉	条件の良い土地はなかなか取得できない。 人気のない水田はU字溝や道路が整備されておらず、軽トラックが通れないようなところもある。	行政の強い推進力により基盤整備を実施し、水田の条件を良くする。
58	藤代・船沢・高杉	気候変動への対応が必要となる。 スピードプレーヤの水くみ場の確保が必要である。	気候変動に対応した優良品種・品目を栽培してほしい。 そういった品種・品目ができただ際には支援などで後押ししてほしい。 気候変動により防除のタイミングが変わってくるため、長期間に渡って水を使えるように土地改良区に相談する。
59	藤代・船沢・高杉	農道が狭くてトラックで通行できなかつたり、危険な箇所があったりする。	農道整備の要件を見直し、積極的に整備を促す。